

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回結城市総合教育会議
開催日時	令和4年8月22日 午後4時00分
開催場所	結城市役所 4階 庁議室
出席者	構成員 結城市長 小林 栄、教育長 黒田光浩、教育長職務代理者 岩崎 勤、教育委員 中村義明、教育委員 赤木信之、教育委員 田中昌希 構成員以外の出席者 副市長、総務部長、教育部長、次長兼総務課長、次長兼学校教育課長、参事兼指導課長、総務課総務係長、学校教育課学校再編係長
議 題	結城南中学校区新設校基本構想・基本計画について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
審議内容	別紙のとおり
問合せ先 (事務局)	総務部 総務課 総務係 TEL 0296-34-0402 FAX 0296-54-7009 e-mail soumu@city.yuki.lg.jp
そ の 他	

令和4年度第1回結城市総合教育会議

○日 時 令和4年8月22日 午後4時00分から

○場 所 結城市役所 庁議室

○出席者

(会議の構成員)

小林 栄 市長

黒田光浩 教育長

岩崎 勤 教育長職務代理者

中村義明 教育委員

赤木信之 教育委員

田中昌希 教育委員

(構成員以外の出席者)

副市長、総務部長、教育部長、次長兼総務課長、次長兼学校教育課長、参事兼指導課長、総務課総務係長、学校教育課学校再編係長

○議題（協議・調整事項）

結城南中学校区新設校基本構想・基本計画について

午後4時00分開会

○総務課総務係長

定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第1回結城市総合教育会議を開催いたします。

最初に小林市長から御挨拶をお願いいたします。

○小林 栄市長（以下「市長」）

【挨拶 省略】

○総務課総務係長

ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表して、黒田教育長から御挨拶をお願いいたします。

○黒田光浩教育長（以下「教育長」）

【挨拶 省略】

○総務課総務係長

ありがとうございました。

続いて、本日の出席者を御紹介いたします。

【教育委員及び出席職員の紹介 省略】

○総務課総務係長

会議に入る前に本日の資料の確認をいたします。

【資料の確認 省略】

○総務課総務係長

それでは早速会議に入ります。本日は、さきほどご挨拶の中にもございましたように、結城南中学校区新設校の基本構想基本計画に盛り込むべき理念や考え方などにつきまして、皆様で意見を交換していただきたいと思います。

議事の進行につきましては、総合教育会議設置要項第4条の規定によりまして、小林市長をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○市長

はい。それでは議長の職をしばし務めさせていただきます。

会議にあたってですね、理想の、これから20年、30年、50年とね、子どもたちの教育をどんなふうにしていきたいかっていう、本当の核となる皆さんのご意見を聞きながら、作り上げていきたいと思っておりますので、とりあえず、まず費用、こういった学校を作るに幾らかかるとかってお金をあんまり考えずに、理想のね、どういった学校がみんな子どもたちの成長にとってふさわしい学校かなということを考えながら、いろんなご意見をいただいておりますので、そういった中で進めていきたいと思っておりますのでよろしく

お願いしたいと思います。

教育コンセプトと施設コンセプト、要はソフト面とハード面という意味合いですね。まず初めに、教育コンセプトの方の検討から入りたいと思います。

小学校5校を統合して新しい小学校をつくるということでございますので、それぞれの地域の特色がそれぞれの小学校にあらうかと思えますけれども、今回統合することによって、新しい伝統というか、新しい校風作りも含めて、どういった学校を作り上げていこうかということで、皆さん方の忌憚のない御意見をいただいでいきたいと思えます。

○岩崎 勤教育長職務代理者（以下「岩崎委員」）

このコンセプトのアンケートの結果を出していただいたんですが、いろいろとすでにこの四川地区の小学校の地域性が出てるなっていうふう感じたんですが、こういった取り組み中で、今の敷地の中で対応できないものあるのかなっていうふう感じたんですが、考え的には非常にいいと思うんですけど、これをうまくまとめていく、それから実現していくにあたって、敷地的な部分と、それから、おそらく地域の協力が相当必要になってくると思うんですけど、その辺をどういうふうにまとめていくかっていうのを、市長の考えをお伺いしたいんですが。

○市長

ここに学校農園みたいなことも書いてあると思うんですけど、私としては、子どもたちに農業体験もさせたいなと思ってますし、さっき最初に申し上げたように、とりあえず、あまりこう、いろんな制限考えずに、こういったことをやりたいっていうのも、まず言っていただいて、そのうえで、ハードルが高いものを何とかクリアしながら実現させたいなと思ってます。

例えば田んぼも学校の田んぼとして買い受けちゃうとか、里山も含めて、周辺の環境を教育ゾーンの一つとして一体化しながら、そういったものを作り上げたいなとは思っています。

いろんなハードルは確かにあるかと思うんですけど、そういったものはちょっと置いて、こういったものができたら面白いんじゃないか、こういった教育環境をつくれれば、子どもたちはどんなふう成長していくんだろうかというのを、考えられればなと思ってます。

私は、感謝できる人間になって欲しいというのが一つありまして、今自分たちが生かされてるんだと、それは自然環境であったり、周辺の大人たちであったり、人や物や自然に生かされてるっていうのを実感できるように、ちっちゃい時から食を通して食のありがたさ、それを作ってる人のありがたさとかそういうものも感じられるような子どもたちに育てて欲しいなと思ってるので、そういった体験を通して、それが米づくりであったり野菜づくりであったり里山を整備することで循環型の社会に繋がって、SDGsにも繋がっていくというようなことが、自分で感じないとなかなか身につかないと思うので、そういった体験、様々な体験を通して、身に付けられればそれが、教育長がよくおっしゃる生きる力ね。やっぱり感謝できる人間じゃないと、なかなか、そういったところにも繋がっていかないかなあと思ってるので、そういう環境づくりを、どういふも

のが一番いいかを皆さんでちょっと出し合っていたいただければな、と。

今の南中の敷地内に全てが収まるかというとももちろん収まらないと思うんで、そういったいろんな意見がたくさん出てますけれども、ある程度絞り込みながら、可能性のあるものを作り上げていこう、と。

○中村義明委員（以下「中村委員」）

よろしいですか。

このアンケートの件で、最初、教育長からお話ありましたが、これ職員の方からいただいたご意見。校長は、一緒に入ってますか。

○教育長

入ってます。

○中村委員

どれが校長がわかんない。わかんないですよ。

実は校長さんはどう考えてるかっていう、それを取り出して聞きたいような、そういったアンケートだったら面白いかなと思って。そうすると、校長、管理職を含めた、教職員からいただいた結果なんですけど、先生方本当に細かいところまで、見ていただいていると思います。

私も、せっかく意見を出していただいたんで全部読ませてもらいました。

でも、私チェック入れたのは5か所なんですよね。

それぞれいろんな見方ができると思うんですけど、これは教育コンセプトなんで教育の内容ということになると思うんですけど、教育内容と合わせて、この施設、先ほどおっしゃってありました、ハード面の方も、お互いリンクし合うんだと思うんですね。

だから、ちょっと切り込んでしまうかもしれませんが、意見の中にあつた、教育の体制として、義務教育学校という一つの選択肢あると思うんですね。あと、若干体制が異なりますけども小中一貫校。その辺の検討はいかがなものか、これが一番頭にくる選択肢だと思うんですね。

私は、特別教育課程の編成をさせていただくようなことも考えていたらと思うんですね。というのは、これからこのグローバルな世界に子どもたちを送り出すときに、文科省もこれは指摘してるわけですけど、まず英語ですね、それから理科なんですけども、広く科学教育、これを特化した教育課程を組めるような教育内容が、もう一つとして、選択肢があるんじゃないかと思います。その辺からやっぱり進めていくことが、そのあと具体化してくるんじゃないかと思うんですね。

そこで、そういうところを踏まえてね、私はあともう一つ、これも文科省でも従来からずっと進めていますGIGAスクール構想ですよ。端的に言えばICTの活用なんですけど、その中でも特に、まず具備しておかなきゃならないものは、ネットワークなんです。一つ新しい学校ができたならば、学校にもデータベースサーバーを置いて、きちんとネットワークが活用できるっていうそういう施設を生み出して欲しいなと思います。いままで見させてもらった学校教育の中でも、立ち上がりまで子どもたちがじ

っと待ってるっていう、あの時間があったくない。特に子どもたちって、すばやい反応能力持ってますよね。そのときに、ディスプレイからゆっくり情報が流れてくるようでは、やる気が減退しますよね。それはもうまず第一優先で、高速ネットワーク、オンライン等ができるようなそういうシステムですね。

あとは結城の特質っていうのを考えて、私は特別支援教育。これは、北のほうの学校については、もう過去に素晴らしい実績がありますし、それはもう続いているわけですね。市外からもかなり賞賛されています。それを南にあるこの新しい仮称結城南小学校でもそういった特別支援教育の充実を目指していければなっていうふうに思いますので、人材の配置も含めて、必要になってくるかなと思います。

いろいろあるんだけど、まず、今、申し上げたような内容については、ちょっと考えていただければ、いいかなと思います。具体的にここにあるいろいろ、あとは市長が申しました子どもたちの自然体験を重視したいっていうことは、具体的な教育実践の中でも進めていけるとは思いますので、とにかく大枠をきちっと決めておくということがまず必要かなと思います。以上です。

○市長

まず、義務教育学校か小中一貫校かっていう話ですけども、私と教育長は、義務教育学校ではなく、小中一貫をやろうということで、こちらの方がメリットが大きいだろうと考えております。

それから先ほど、英語教育とICT、あと科学、これも実はやっぱり、せっかくこの新しく小学校を作るということで、人口の減少対策じゃないですけども、やはり新しいこれからの将来像を見越した魅力ある小学校づくり、小中を含めた教育環境づくりをすることによって、若い人たちが移住したい、あるいはそこで学ばせたいというのを作りたいということもあって、大きく私が考えてるのは、先ほど言った英語教育、科学もそうですけど、IT教育ですね。プログラム、プログラミングとか、いろんな最先端の教育と、芸術教育じゃないですけど、音楽をメインにしながら、芸術関係の柱を作って、やっていきたいなとは実は思っています。

あの学校はちょっと違うねと、ある意味エッと思わせるような教育をね、環境も含めて作り上げないと、いろんなところから結城を選んでくれるということにならないと思いますので、そういったことも含めて、将来を見据えて、ぜひそういった教育を力を入れていきたいなと思います。

それこそ、その環境も、サーバーを入れるなんていうのも、本当にそこまでやるか、なんてぐらいやないと、やはり魅力が出てこないんですよ。

だから、とにかくやれることを、ハード面も含めて、教育、ね、国家百年の計じゃないですけど、教育がやっぱり一番核になるべきだと思っていますので、頑張って、行政としては力を入れていきたいと思っていますので。本当にこれは絶対条件ですね。それが町の活性化になると思います。

○中村委員

はい。関連していいですか。義務教育学校ではなくて小中一貫。そうすると教育課程

が結局ガチッとしてしまいますよね。市長がおっしゃったことが面白そうなので、義務教育学校の方が自由に展開できそうなんですよね。私はそっちの方が好きなんですけど。

○赤木信之委員（以下「赤木委員」）

私も義務教育と一貫ということで考えたんですけど、どちらも9年間で子どもたちをサポートしていくっていうコンセプトで進んでいくわけなんですけど、私は結城の小・中学校の数をできるだけ減らさない、減らさないって言っちゃ変ですけど、義務教育学校には校長1人、それに先生方いらっしゃいますよね。一貫校であれば、校長が2人いるわけですね、敷地が近いですが。2人がいて2人の考えのもとに、それぞれの組織体が動く。であれば、やっぱり一貫校方式で進めていった方が、結城市全体の活性化という意味合いも含めて、高まっていくんじゃないかな。南小学校でこんなことやってるよ、結城小学校、結城西小学校もちょっとそれはいい、付随してみようなんてことで、そういう意味での切磋琢磨になるんじゃないかなと思うんで、義務教育学校ではなく、一貫的な学校にしたほうがいいのか、という感じがします。

それと、一貫校であっても、教育課程は柔軟にできるんですよね。

○教育長

はい。

○赤木委員

首長さんの申請で、そこは柔軟にできるんで、この中の意見で、いや、いいなと思うのはやっぱりふるさと科を設けてなんて、意見が出たんですけど、小学校1年生から中学校3年生まで総合的な学習の時間の中で、1年生では畑づくりをやってみたり、6年生では白菜づくりをやってみたり、中学生だったら稲作をやってみて、それから進路っていうふうに結びつけていくような、そういうふるさとを愛しながらふるさとを理解して、自分で体験して学ぶ、そういうものを9年間の中で一貫して、小学校と中学校の校長先生をはじめ先生方が、本当に連携を密にしてプログラムを組んでいけばいいのか、そんな感じがします。そういう意味で、併設一貫型でありながらも、ともに歩いていくんだ、特に校長先生方が連携をして、それを職員に伝えて、連携していけるような学校づくりっていうものを考えていくと良いのかな、そんな感じがしながら、これを見させていただいたんです。

○中村委員

そういう選択肢も当然にありますね、一貫校。

私、言葉をうまく選べなくて面白いと言いましたけど、結局、教育は人なんですよね。さきほど校長はどういう意見持ってるのかなっていう話をしましたけども、結局、新しいスタイルの学校ができたとしても、校長がどこまでそれを認識してできるかっていう、そこを、どれほど信頼していったらいいかっていうと、校長さんそれぞれが責任を持ってるはずなんです。たくさん意見が出て、それを束ねるっていうのはすごく難しい。そういったことを考えたときに、トータルコーディネーターっていうか、そういったも

のが必ず出てくる必要があると思うんですね。それは教育長かもしれないし、市長さんかもしれない。それを体系づけて、本当にこの組織が動くにはどうしたらいいかっていうことで、後々まできちっと見ていかないと駄目だと思うんですね。これは義務教育学校になっても同じですけども、素晴らしい人を作っていただいて、学校運営をもっていただかっていう方向で進めていただくといいかな。

どちらでも、それは、市長さん、教育長さんの考えでよろしいかと思うんで。

○教育長

中村委員さんの御発言はやっぱり一番、もう最初にね、どういう学校のスタイルにするかってのは本当に大事なところだと思ひまして、我々も、周りの義務教育学校、一貫校のデータを収集しまして、事務局で、こういうメリットがあつてこういうデメリットがあるんだつていうことを全部まとめていただいて、それを、もう2回目になるんですけども、推進委員会を開催させていただきまして、一貫校の方で本市としては進めさせていただきたいつていう、そこまでは、お伝えしています。

私の個人的なお話ですと、周りの、今度できる明野五葉学園とか、桃山学園とか、あと、小山の義務教育学校と一貫校全部調べさせていただきまして、やつてゐることは結局、赤木さんが言われたように、同じことがもちろん併設でもできますので、児童生徒数とその地域の状況ということを見ると、私も市長さんの言われるように、一貫校で持つていければこれは南中学校区に合うのかなつて。これからもっともっと丁寧に、地域の方にもそういうことは、説明して納得していただけるように持つていければなつていうふうに私も感じております。

中村委員さんからの校長先生のお考へつてことで、校長先生だけじゃなくて、この前も小中連携会議つていうことをやりまして、本気になつて、先生方もそうですし、校長達もその中に入つて、意見を交わして、これが出てきたと思うんですけども、結構真剣に、本当に真剣に、当事者意識を持つてやつていただいているのは、ありがたいなつていうことを感じました。

現在も校長の方で、この新しい学校の、まだ何も決まつてないんですけども、グランドデザインもどうなのかつていうことで、それを中学校の校長を入れて、ちょっと作つてみてくれつて。それを、教育委員会とか市長さんにも御提案させていただきます、そんな感じでいろいろと検討していただいているところでございます。以上です。

○田中昌希委員（以下「田中委員」）

義務教育学校、小中一貫校、どちらがいいかということで、保護者の立場から実情を踏まえて、専門的なところは本当わからないんで、本当にメリットが大きい方で進めていただければと思います。

私は、今の現状の問題点から、何が必要になつていうところで、問題点を三つ挙げてそこからどういふ提案をするかつていうふうに考えていきたいんですが、まず一つ目の問題として、心の問題を抱える子ども、あとは家庭の問題を抱える子ども、外国籍の子つて、すごく様々な子が増えているのが現状です。あとは身体に障害があるとか、医療的な支援が必要な子も実際に教育現場で見ていただいているのは計画訪問で見させてい

いただきました。

そのような、多様な子どもたちを指導する先生っていうのは、そういった問題を抱える子に時間を割かなければならなくてとても大変だなって感じました。こうした問題を解決する、一つとして、少人数学級の導入っていうのを検討していただきたいなと思います。

前に第1回アンケート調査って、小・中学校、保育園、幼稚園、保護者にアンケート調査していただいたんですが、そしたらどの保護者も一クラス当たりの人数はどの程度が望ましいかっていう設問に、21から32、ていうのが全部グラフ多かったんですね。なので、これはもう保護者も希望していることだし、子どもにとってもそれだけ人数が少ないと、手厚く見ていただけるっていう学力向上にも多分繋がっていくと思います。先生にとっても、負担がそれだけ減るので、理想的なんじゃないかなって思います。

あとは、身体的な支援が必要な子が入れるように、バリアフリーの校舎っていうのは当たり前だし、あとは、木造校舎っていう案もありました。私も賛成で、自然っていうのは心を癒やす効果もあるので、そういった様々な心の問題を抱えた子にとっても、そういった木造校舎っていうのは、良い面があるんじゃないかなって思います。

あとは、その先生の負担を軽減するっていうところで、3年生からせつかく小中一貫になるんだから、教科担任制、導入したらどうかかって。そうすれば、専門的な教育を子どもも受けられるし、先生も専門的に教えられて、その分空き時間も取れて、その担当の教科の研究にも時間を割けるんじゃないかなって思います。

あと、二つ目の問題点として、子どもの運動不足っていうのが挙げられるかなと思います。今コロナ禍で自宅で過ごす時間がすごく長くなったり、毎年この暑さで熱中症アラートとかが出てて、外で思いっきり遊ばなくて、結構太っちゃってる子とかが見受けられるっていう。あと、今度スクールバス導入ってなると、今は歩いて登校できてたのが、歩く距離も短くなるので、ますます体力減退が心配になるなって思いました。なので、思い切り体を動かせる環境が必要なんじゃないかなと思って、先生方の意見にもあったように、全身を使ってアスレチック型の遊具を入れたりとか、あとサーキットトレーニングができる設備っていうのも書いてありました。あとは、わいわいドーム下妻って下妻市にあるような全天候型の体育施設っていうのもあると、冬はすごく風が強くて、結城南地区は、本当にほこりだらけになったりとか、あと天候悪い時も、思いっきり体動かせる施設あるといいかなって思ったり。あとは、プール。というのは、例えば、今度廃校になってしまう小学校跡地に市民プールっていうのを作って、そこで、子どもたちも水泳の授業を夏はできる。市民の方も、そのプールを利用できる、市民プールっていうのも一つかななんて。

三つ目の問題点としては、地域との深い関わりが、この五つの小学校はすごく地域との関わりが深いと思います。なので、こうした地域との関わりを絶やさないことが必要だなんて思って、市長からもお話があった、この農業が盛んな地域っていう特性を踏まえて、学校農園っていうのはすごくいいと思います。保護者とか祖父母もこの地域では農業に従事している家庭も多いので、協力は得られやすいと思います。例えば学校農園隊とかいう名前で募集して、農業を通して地域の人々と繋がって、それがふるさと教育にも繋がるかなって感じました。

敷地内にそういった畑とか田んぼとか作るの大変だったら、高齢で畑作れなくなっちゃった人で、荒れてる土地っていうのが結構見受けられるので、そういったところを活用してっていうのも一つかななんて思いました。

あとは、里山って言ったら、近くに健康の森っていうのがありますよね。そういったところを利用して、里山での教育っていうのをやっていったりしてはどうかなって。なかなか学校の敷地内に里山作るっていうのは管理も大変だし、不審者が入ってきらどうするか、入りやすくなっちゃうかなってちょっと感じたので、思いました。

あとは、文化、歴史ふるさと教育っていうのが、先生方の意見であったんですが、その中で、体験施設などを学校内に作るっていうのもあったんですが、学校内に作るっていうよりもともとせっかくあるのだから、そういった設備に出向く機会をもっと多く、宿題で出してもいいし、子どもたちを出向かせる、そういったのも、やっぱり地域との繋がりになるんじゃないかなって感じました。以上です。

○市長

はい。ありがとうございます。

○岩崎委員

最初の里山とか自然ぬくもりとか、地域的なことだと思うんですね。この農業体験、それから文化歴史、文化教育、アンケートの中でも、ふるさとに抱かれて学校生活を送る子どもたちになって欲しい。このふるさと教育って、子どもたちが将来、自分の出身地とか、結城ってどういうところなんですかって言われたときに、こういう歴史があってこういう特産物、特産品があって、こういう地域性があって、こういう教育があって、そういうのがどの程度整って、その中で私が育ってきたんだというような話をスパッとどこへ行っても言えるような子どもたち像を描いて、うまくつなげていくと、非常にわかりやすくできるんじゃないかと思うんです。いろんな意見がいっぱい出てきているから一つ一つを見ていくとなかなかなんですが、それを子どもたちとうまくつなげていくと、非常に教育をどういう格好でっていうのがわかりやすくなるような気がするんですけど、いかがでしょうか。

○市長

そうですね。私も自分たちが、よく外国行って、日本人があんまりよく言われないのは、自分たちの歴史とかも知らないで、誇りを持ってないとか、自分たちのアイデンティティ、どこによって立ってる国民なのか。自分のアイデンティティっていうかね、そういうものが表現できなくて、大人になって説明できないっていうのは結構、よく聞くことではあるよね。

まずは、自分が育ったところをよく知ってるっていうものがね、人にも説明できて結城はこういったところだよ、一度来てくださいよぐらいね、言えるぐらいのね。だからそういった意味では自分たちのこの結城の歴史だったり産業だったり、人柄だったり、いろんなものを自慢できる結城をね、ぜひ、もう学びながら育てて欲しい。

○教育長

本当に、岩崎委員さんの言うとおりで、市長さんがいつも言ってます、地域への愛着と誇りってことに繋がってくると思いますので、今、学校に特に四川地区と南中をお願いしていますのは、この各学校が、令和9年にまとめちゃうんだけど、その地域は失って欲しくないっていう考えから、ふるさと教育っていうこと、特にピンポイントでやって欲しいってことで、今、校長先生はもう一生懸命取り組んでるところなんです。

例えば、上山川小だったら結城廃寺。山川小は結城水野家と山川水野家。江川北小なら香取前遺跡。江川南小学校は、白菜とか、今オーガニック栽培にも取り組んでいただきまして、中学校で今何やってるかといったら、校長のアイディアで、アントレプレナーシップっていう起業家教育っていうことで、コロナ禍で職場体験が行けないもんですから、行けないんだったら、なんでそういうところでそういうのを作ったんですかとか、インタビューして、自分の学校のホームページの方に載せていこうと。地元で、特にそのふるさと納税なんかにも協力してくださってるようなところは、結構四川地区にもあるもんですから、そういうところで地域をもう1回見直してこうということ、校長先生がリーダーシップとってやってくれてたら、面白い。で、それをどこかで、地域の教育を発表する機会がないかなっていうことで、今検討してるところで。一生懸命、今、ふるさと教育進めてるところです。以上です。

○赤木委員

私は、この資料をいただいたときに、この教育コンセプトっていうふうな言葉を聞いて、自分なりに考えたのは、結城の教育、南地区の教育コンセプトは、地域未来に生きる人づくりって大きな柱のもとに、具体的に、ふるさと学習では、1年生では、2年生ではこういうふうに組んでいって、段階的に学べるような形にするといいんじゃないかな。初めに言った南地区の教育コンセプトとしたら、地域未来に生きる人づくりを大前提の中で、具体的に取り組むことを上げていくことが必要んじゃないかな、そのような感じがしたと。

やっぱり地域の特性というものを最大限に生かせる学校にしたいですね。子どもたちが行ってよかったな、卒業していいとこだったなって思えるような、やめて帰ってきたいなと思えるような、地域づくりってのはもう、進めていけばいいなという感じがするんですけど。

○中村委員

地域づくりの話が出てきました。地域の中で、そういうコミュニティーの中で育まれてきたってそういう文化がありますよね。やっぱり大事にしていくということとはとてもいいことだと思うんですが、こういうコンセプトっていうことを考えたときに、これ斬新だっという一つ上にタイトルを置くと、結局、教育行政、学校って学校長が教育プラン、計画、具体的な、要するに、タクティクス、いろんな戦術、こういうこともするためには、こうやっていくよっていうのをやっていくわけですね。で、先生方から出てきたアンケートって、戦術的な、学校、教育計画の中で盛り込んで、校長がリーダ

ーシップ取るっていう、そういう内容ものが多いと思うんですよ。

でも、新しい仮称結城南小学校のコンセプトは、もうちょっと上にステージを置かないとならないかなと思うんですね。教育行政があって、学校があって、学校は学校長が束ねるわけですよ。こっちは教育委員会が作るわけですよ。だからそこはちょっと違うので、より前進的な議論をするのであれば、もうちょっと広い視野に立った方がいいかなと私は思うんです。

で、そういう中で、先ほどと重複するするんだけど、一つはこれからの学校っていうか、学校コミュニティ、これからのそういった組織、学校というものを作っていくのに、ICT生かすためにはまず、既存のものを生かすっての非常に大事ですよ。新しく作り出すってのは、かなりコストもかかる。コスト関係ないとおっしゃいましたが、必要なので、例えば情報センターってありますよね。素晴らしい図書館があります。それからあそこの情報ネットワークはどういうふうに構築されてるかわかんないんですが、そういった市の情報センターと新しい学校が、あるいは外部にもっと素晴らしいリソースあると思うんですね。そういったものは全部一つのオンラインで繋がるように、それを子どもたちが学習ですぐさま使えるように、結城市にもこんないいところがあるぞと、そういう部分的なもの、それぞれの部分的なもの、たぶん大きなリソースですよ。そういったものがすぐアクセスできるような、一元化できるようなネットワークづくりも私はあっていいのかなと思うんですね。

だから、一つの考え方として、情報ネットワークをせっかく新しく構築する学校であれば、そういったものを視野に入れていけたらいいかなっていう思いはします。

○市長

さっき田中さんが言った少人数の学級編制、想定されるのは何人ぐらい大丈夫でしたっけ。

○教育長

小学校4年生までは40人学級で、1年生から3年生は35人学級で編制されています。4年生以上も段階的に35人学級になる予定です。

○市長

30人に例えばする場合は、先生をこちらで雇うしかないんだよね。市で。

○教育長

そうですね。例えば、教科担任制ということで教科で二つに分けることは、少人数制ができるんですけども、学級を多くするってことは、今のところはまだ、できてない状態です。

○市長

でも、市が何とか予算、付ければできないことはないですね。

○教育長

できないことはない。はい。

○市長

市の職員として雇って。

○教育長

そうですね。特に、来年度の江川南小学校なんか複式学級になる予想ですので、いきなり複式っていうんじゃなくて、市の予算で、もし、うまくいけば、そういうことで、できる限り二つに分けて、やればっていうことも。

○市長

複式を避けていくことができるよね。

○教育長

あくまでも複式なんですけども、そこを市で分けてやるということは可能だと思います。ただ、文科省は、あまり少人数が効果的だっていうことは、思っていないような雰囲気ですよね。少人数だから学力が上がるって、おそらく思っていないんじゃないかなという、個人的に思ってます。

○中村委員

絶対少人数は有利ですよ。田中委員さんおっしゃったように、確かに、一人一人に細かく配慮できるっていうのは。だって、40人学級より20人学級の方が絶対いいわけですよ。同じ能力を同じ先生が同じ労力をかけちゃったら絶対にいいわけです。同じ学校で、できるんだったら2人にしたときに、絶対少人数が私がいいと思う。いろんな意味で田中委員さんおっしゃったと思うんですけど、私の場合には、習熟度別学習っていうのを取り入れて欲しいな。そのために、優秀な職員を集めていただいて、それで二つに移行。クラスを編成する。習熟度別の中には別の障害を持った方もいるかもしれないですね。その少人数だったら、そういう特別支援に関わる、本当は必要がある子どもたちも十分に支援できるかなと私は思いますし、だから少人数学級というのは大賛成なんです。

○赤木委員

実質令和9年からスタートということになると、それぞれの学年は、子どもたちの人数ってどのぐらいなんですか、2学級、1学級。

○次長兼学校教育課長

2学級になりますが、学年によって3学級の学年もあります。

○赤木委員

そうすると1学級はそんなに人数は多くはないんですね。

非常に都合がいい人数、極端に言えば、27、8人で2学級とか、そういうふうになれば、少人数学級はもちろん大事なことだと思うんですが、そこに、例えば生活指導員さんに加わっていただいて。なかなかね、少人数指導をやるために市で予算化して、先生を、今、県でも先生がいなくて騒いでる時代に、そういう方を引っ張ってくるのは非常に厳しい状況だと思うんでね。であれば、生活指導員の方に、教員免許のなくてもできるという方に入っていただいて、一緒にサポートしてやれる。障害のある子に対して、そういうふうな形でのことを考えていいんじゃないかな。

それから、さきほど田中さんから、教科担任制って話が出たんですが、私もその教科担任制については賛成で、ただ、小学生の段階では、せいぜい5年生、6年生あたりから教科担任制を導入してっていう形がいいんじゃないかな。そうすれば、中学校に行っても、スムーズにその教科担任の先生の授業に入ることができるんじゃないかな。

あんまり小さいうちから担任教員と離れて、別の担任があつて、もちろんいいことだと思うんですが、やっぱり担任の先生が1年生から4年生までは丁寧に見てやって、それから羽ばたかせるっていうふうに、5年生あたりから教科担任制を導入して、教科担任をするにあたっては、一貫校で並列型、校舎も近いですから、兼務発令で、中学校の、例えば音楽の秀でた先生に授業に出てもらう。美術の先生に図工の授業に出てもらう、そういう兼務発令なんかをできるような。これはもう、教育長の頑張りでそういう先生を引っ張ってくるっちゃうことになるかと思うんですけど。

○岩崎委員

またちょっと違った話になるんですけど、ハードの整備の部分で、蔵書の多い図書館とか、市立の図書館の分館とか、集会を發表できるオープンスペースとか、いろいろこういう意見が出てたんですけど、図書館という整理でいいと思うんですけど、自分で、積極性があつて図書館は利用してます、勉強ができますっていう子たちは、非常に図書館とかそういうのの充実は多分高いんだと思うんですが、そうではない子たちもいるわけですね。その子たちが、いかにそういう学校の施設を有効に利用するかというときに、例えば司書の方でももちろんいいんですけど、そのわからない子が気軽にもっと聞ける人がそこにいればいいのかなと。例えば、さきほど教育長がいろんな市内の会社からインタビューしてという発表会をする、といったときに、プレゼンをすることに対して、もし図書館を建設してそういうスペースがあれば、そのときに相談して、こんな感じでどうでしょうかとか、こうしたらもっといいんじゃないかという、助言をしてくれる人がいると、非常にいいのかなって思うんです。それと、これは極端ですけど、例えば島根県ですと、市町村とか、各自治体で、もう塾的なものを独自に持っているところがあつて、そういうところは図書館みたいな、蔵書があつて、勉強して、指導もしてもらえる、プレゼンするスペースがある。そのプレゼンの仕方についても、助言してもらえるというような施設が市であつたりするので、例としては極端かもしれないんですが、教職員ではなかなか時間的に難しいと思うんで、退職された先生方で、例えばその放課後の1時間とか2時間の時間だけそういうふうな先生が、何曜日だったら、例えば、プレゼンとかICT授業に助言をすごくしてくれる先生ですとか、今日は科学の非常に

得意な先生が来てくれますよっていうそういうあれがあると、子どもたちも、今日はこの先生が来てから、図書館行って聞いてみようとかっていう時間ができる就非常によいと思う。

○市長

私もそう思う。放課後プログラムだよ。

放課後の使い方は、もう学校の先生から解放してあげて、放課後は放課後で、例えば今言っていたような塾の先生じゃないけど、そういった人たちに来てもらって、英語を勉強したい子は英語を勉強するし、プログラミングやりたいとか、音楽をやりたい子は音楽をやるとか、いろんな選択肢をあげたいなあとは私も考えているので。

○岩崎委員

図書館で、本以外のいろんなその使い方っていう幅が広まると、そういう施設の利用率も、それから子どもたちの興味を引いて、読みに行くこともできるし、学力向上にもつながっていくのではないかなっていうふうに感じます。

○市長

そういう多様な選択をできるような環境づくりをやりたいなと思ってるんだよね。それこそ本当に9歳の囲碁のプロが出るような、それ極端だけど、本当に、地元の例えば将棋好き、囲碁好きが来てね、いろいろやりたい子が一人、二人でも来れば一緒に相手をしてあげるとか、放課後の過ごし方は子どもたちが選択できると。もちろん運動も地域ということも今、検討してきていますけれども、そういったことも含めて、どういう放課後の過ごし方をすれば子どもたちが、とにかく、選択の幅を広げてあげたいなと思ってる。

○中村委員

もう大きく考えていくと、学童とかを拡大していけば、もう資質はできてるんだから、そんな難しくないと思う。情報センターを、例えば、一つのコントロールセンターみたいなものを含めた情報センターにするっていうのもありますよ。そこから学童とか他の児童クラブとかいったところにいろいろ情報を発信してあげられるような、母体になるのは、実際に今まで必要であるからできてきたわけですよ。そういったものを少し拡大していく、ということ。

○市長

オンラインとか、例えば、情報センターで講義とかできれば、面白いかなと思うんで。いろんな授業、いろんな趣味の。

○中村委員

施設の方のコンセプトっていうのがまだあるんで、いいですかね。

○市長

はい。どうぞ。

○中村委員

はい。施設を考えなさいってことできつとこれいただいたと思うんですね。

私はこの近くに住んでるんですけど、ここの裏山は、借り上げ、買い上げできないんですかね。これいいですよ。

私も新しい仮称結城南小ができると聞いて考えたんですよ。広大な敷地に平屋をぜひお願いします。平屋っていうのは先ほど田中委員さんが木造がいいですよっていいましたが、木造でできるんですよ。

まず、敷地が確保できるっていうことが条件なんでしょうけど、実際にそんな大きな小学校にならないですよ。いや、とにかく平屋がいいんですよ。バリアフリーっていう考え方からしても、防災関係も絶対いいと思うんで、平屋の方が。あとはコスト、耐震とかそういったこともちょっと違うのかなと思うし。

私のイメージの中では、その校舎は平屋で、ここにすばらしいいろんな意見がありますが、私はシンプル・イズ・ベストなんです。とにかくシンプル。もうオープンスペースです。余計なものをがじゃがじゃやらない。格好は付けない。そういうことも考えて、ぜひ平屋で。

そして子どもたちに、小学生だから1年生がすぐ逃げられるとか、例えばですよ、3階建てなんか作っちゃって、上から下に降りてくるのに時間がかかるとか、防火シャッターが閉まっちゃって移動ができないとか、そういうトラブルをたまに聞きますから、平屋がいいかなって。木造はいずれにしても、オープンスペースで。あとWi-Fiも平屋の方が通りやすいですよ。そういったことを考えたときに、平屋がいいなっていう風に思うんで、ぜひ市長さんの耳に。

○岩崎委員

この敷地についてなんですけど、今度スクールバスが運用されることになると思うんですけど、車両が出入りするということで、その動線をどうしたらいいかと。

あと、雨の日とか保護者が迎えに来るときに、常に子どもたちの下校と重なって、ちょっと危ない部分があると思うので、この学校の東側を少し土手を削ってもう少し広くなればバスは大丈夫なのかな。校舎の裏側には、自転車置き場と山の間に挟まれてて狭いんですけど、ここがもうちょっと広くなればこれをぐるっと回って、西回ってこっち出られるというような、いつも一方通行でっていうふうにしていけば、この車両の流れっていうのが、スムーズなのかなと。どっかでUターンするとかそういうものができてしまうと動きが難しいのかな。

○市長

それは専門家にね。そういうのを想定して、安全にスクールバスが入ったり、父兄の送迎が混乱しないような形を作り上げていくような設計を。

この裏山に関しては、実は、私もね、森の保育園を作ろうと思っていて、保育施設も、

上山川と山川の保育所がだいぶ老朽化して、今検討委員会もやってるんですけど、1か所にしようと思ひまして、統合して。結城南中周辺に配置しようとは思ってるんですよ。そうすれば保育園に行く子と小学校に行く子がいれば、同じところへ連れて行っちゃった方が、スムーズだと思っかね。この裏山をね、里山を生かしながら、森の保育園にしよう、森の中に保育の施設を作ろう、というふうに思っているんだけど。

まあ、何らかの形で活用したいと思っかねいます。はい。

○中村委員

すいません。いいお話聞いたんで。常に思っていること。里山と湿地の田んぼと、ものすごい生態系が抜群なんですよね。

これは私の同級生で岩井のミュージアムパークで研究員をやっている者が二人いるんですね。それと一緒に里山歩いたら、やっぱりいいと。なんでこんなとこターゲットにしたのって聞いたら、こんなすばらしいとこはないって言うんですよ。植生が、あんな素晴らしい地域はないっていうんです。湿地があつて里山があるっていう、それがあそこの南中の北側はぐるりそうなんですよ。田んぼがあつて、もう里山。それを、ぜひもっともっと子どもたちが関わるようなものとしては残せたらいいのかなっていう、思っかねたんです。

3年生から理科の授業始まりますよね。最初に出てくるのが、里山探検みたいな、周りのお花を調べましようみたいなものなんですよね。そうすると、すぐ連れ出して、もう田んぼの池。池だったらお花もあるし草もあるし、生き物ならカエルもいるし、最高にいいんですよ。だからそういった自然体験はもう、絶対に生かされると間違いないと思っかねます。

○市長

とんでもないことを言わせてもらえば、この辺に、コウノトリがくる田んぼを作りたい。トキが来たり。小山が一生懸命やってますけど、この南中周辺も、本当に自然豊かな生物多様性で。本当に、できればここ有機栽培の田んぼを作ったりとか、そういったもので、カエルやドジョウやなんでも生き物がいるようなところにすれば、トキがえさを取りに来るんじゃないかと。コウノトリだったり。本当はこの地域をそういった地域にしたいなあと思っかねてるんですよ。

ハードルはかなり高いんですけども、とりあえず、そういう生物多様性というのは、今中村先生おっしゃった里山と田んぼというのは、この地域の現風景なんです。だから本当にそういうものを残したいなあと思っかねますし。

○中村委員

あそこに行ってみるとわかるんですよ。田んぼの中を行くと、本当素晴らしいんですよ。今は、コウノトリはいませんがね、アオサギとかシラサギもいますし、最高ですよ。学校で連れ出さないと今は子どもたちは外に一緒に行かないし、外に出て遊ぶってこともしないから、そういう意味ではそういう自然体験は、いくら田舎の子どもでも学校にいるときに仕組んであげないとできないかもしれない。

○市長

木造校舎は、私もそれでいきたいと思っています。平屋か何階かはちょっとわからないですけど。

あと、プールの話も出ましたけど、プールは、ゆくゆくは鹿窪運動公園に、一年中使えるプールを作って、そこに子どもたちもしたいなあと考えてますけどね。

○中村委員

南中のプールは使えないんですか。

○教育長

南中は、今、底と周りが破損してまして。

○中村委員

何とか直して。お金あんまり考えないで意見言ってくださいって言うんだけど、実際お金ですよ。だからどうしてお金は、やっぱ考えなきゃと思うんだよね。だから南中のプールを、あれを少しリメイクするっていう、これで十分だと思うんですけどね。

○市長

各学校にプールありますよね。プールを使う時間。そう考えるともう、各学校にある必要もないかな。一年中プールの授業ができる、市民も使えるみたいな効率的なプールを一つつくれば。今、実際、西小と結城小学校が、ささはらさんというところで委託でやってもらってますけど、そういう、ささはらさんとかとも相談しながら、将来的には、公設民営か、管理していただくのかわかりませんが、いずれにしてもそういう将来的には、ここにプールという選択肢を外しといて。

○赤木委員

私はもう、このプールについては、市長さんおっしゃったようにささはらさんに結城小と西小が行ってますよね。あれは思い切った選択でいいことだなと思うんですよ。

プールを維持管理するとなったら莫大な費用、水を入れる、薬品を入れる。それを、ひと夏もたせる。万が一水が駄目になっちゃったらまた入れ替えるということを考えると、その分やっぱりお金を払って済むことであれば、民営なんだけでも、ちょっと公共的なところに依頼して、こっち面で予算を使うっていう形で割り切っちゃった方がいいのかな、と思いますよね。一番いいのはね、市長さんおっしゃったように、鹿窪あたりにできれば一番いいんですけどね。

○中村委員

赤木委員さんがおっしゃったように、私も基本的には外部委託がいいと思います。ただ、その外部委託も、容量・キャパがあるかどうかって問題があるんで、そのためにはお金出してちょうだいってことになるんじゃないかと思うんだよね。

もう一つ、体育に関しては、ちょっと不安なのは文科省の動きなんですよ。

学校の体育指導っていう教育課程の編成、どういうふうに変わっていくのか、変わらないのか、文科省ってちょっとこう揺れてるみたいなんで。

プールについては、新しく作るとかっていうことになると、エーッということになっちゃうかもしれないんで、おそらく外部委託の方がいいかなとは思っています。

○市長

小学校の体育って、文科省でいうと、どこに目標を置いてるわけですか。小学校として、体育として目指す目標みたいのが多分あるんですよ。

○教育長

そうですね、はっきりとここでちょっと申し上げませんが、きちんとそれは決まってると思います。ただ中学校におきましては、何が何でも水泳指導をやらなければならないということではない、ということなんで。

○市長

ここまですべて言っておきたいことなんかあったらぜひ言っといてください。

○岩崎委員

この写真の中でも、思うのは、教職員の数も当然多い。そうすると、駐車スペースとか、自転車置き場とかも、この辺にもしかするとその施設が移った場合には、自転車置き場をどこかに移転するとかっていうことになるのかなっていうふうに思ったりもするんですけど。

ちなみに西側っていうのは、拡張できないですかね。

○市長

できないことはないと思うけど。

○岩崎委員

これは、農業委員会とのからみもあると思うんですけど、建物を建てないで、この駐車スペースとかもしくは自転車置き場の拡張という単純なスペースの確保であれば、そんなに難しくはないかなって感じが。だんだん、職員の数も増えてたりなんかすると思いますし、中学生は、今までどおりなんですかね。自転車。

○教育長

今でも普通に自転車で来てますので、多分そうなるかなと。まだ決定とかなんでもないですけども。

○赤木委員

ここに駐輪場ありますよね。写真でね。この半分ぐらいですか、使っているのは。結

構、生徒数が減っているから。

○教育長

そうですね。

○赤木委員

あと、校舎を立てていく中で、さっき中村先生がおっしゃったように、私ももちろんいいと思うんですが、ただ南北の校舎だけは、やめた方がいいのかな。

東中開校の時に勤務させていただいて、カッコいい校舎で見栄えもいいしと思ったんですが、朝から東から太陽が照りつけて、夏なんかは暑くってられない。カーテンを閉める。結局ライトをつけなくちゃならない。お昼から午後は日がほとんど当たらなくなっちゃうんだよね。肌寒い校舎になっちゃって。だから、現在ある管理棟とか、特別棟に並んだ東西の校舎というふうに考えていった方がゆくゆくはいいのかなという感じがするんです。例えばプールを潰しちゃって、この体育館の前あたりにドーンと東西で。そうすれば、中学校の校舎と小学校の校舎が近くなって先生方の行き来もスムーズにできるのかなって感じがするんですが。

○市長

ゆくゆくは小学校の方が人数多いんだよね。

○教育長

そうですね。

○中村委員

もう、極端に、新しい小学校、校舎作んなくても済むっていう。

○市長

一番のお金かけないのは、今の校舎を再利用するっていう。

○赤木委員

でも例えば義務教育学校であればそれは可能だと思うんですけど、一貫校となった場合には。

○中村委員

いや、関係ないですよ、それは。私、一番最初に勤めた学校は廊下続きで小学校、中学校が一緒でしたよ。一緒はいいもんです。何かもう、わきあいあいと。

○市長

教室は結構ありましたよね。

○教育長

それ、一番最初にやっぱり、私なんかも考えて、入っちゃうなあ、なんて。

○中村委員

中を少しいじくればできちゃう。だって昔、学年11クラスもある、そういう時代があったんですよ。

○田中委員

この間、入ってみていっぱい空き教室があったんで、もったいないなんて、保護者の間でも使えるのあるんじゃないかなって話もあったんですが。いや、でも、階段の段差が大きかったり、そのままでは小学生は使えないし。

○中村委員

そこから少しアレンジにしないと駄目だと思うんだけど、そういう点もありますよね。多目的教室として使う道はあるんだろうけど、そこまで多用しないんじゃないかな。

低学年なんかはもちろんね、1階に置いといて。そうすればすぐワーッと外に出られるんじゃないの、休み時間に。グラウンドが遠いとね、バーッと出てきて帰ってくるのに時間かかっちゃったり、授業にならなかつたりしちゃうから。業間休みがなくなっちゃったりとか。まあ、ある程度現実的に考えるっていうことも必要ですよ。その中でやっぱり特徴、特色ある学校にして行くっていう、それが現実的かなとは思っただけど。

○市長

それは一応選択肢の中に。教育のためにその内装、中身を変えるということは、考えていくとして。

私がちょっと気になってるのは校庭なんだけど、グラウンド、あそこ水はけはいいんだっけ。

○中村委員

悪くはないですね。直していただいたんだよね。

○総務部長

そうですね。暗きよを入れました。北関東中学校野球大会で使うんで、暗きよを入れていただいて水はけを良くしてもらったっていうことでした。

○岩崎委員

グラウンド、地域もあるんですけど、ほこりっぽいで、何とかうまくね、何か。

○中村委員

小学生をイメージしたときに、冬、風の子だって言ったってあの中でやってたらみんな病気がっちゃうよね。中学生だってそうですよ。冬の外での体育は、だから難し

い。でもさっき何かお話してくれましたよね、全天候型とか。

○田中委員

そうですね。ドーム。

○市長

下妻は屋根だけでしたっけ。

○田中委員

そうですね。全部密閉されているわけではないですね。

○岩崎委員

多分アンケートの中にある人工芝とか、全部芝生でっていうのは、ほこりの問題だよ
ね。

○赤木委員

芝はやめたほうがいい。つくば市が芝生の学校ってことでやったけれども、いや、も
う管理が。今の名崎小学校のグラウンドってご存知ですか。なんか、緑っぽいような、
白っぽいな、砂じゃないし、ってそういうグラウンドね。

○教育長

千代川中なんかもそうですよ。

○赤木委員

あれもお金がかかるでしょうね。ああいうグラウンドであれば結構子どもたちのけが
も少なくて済むし。ただ、かなり費用がかかる。

○市長

はい、最後に何か言い残したことございますか。よろしいですか。

今回は、いろいろね、また参考にさせていただいて。

じゃ、進行お願いします。

○総務課総務係長

小林市長におかれましては、議長をお務めいただきありがとうございます。また、
教育長をはじめ、教育委員の皆様にも多くの御発言をいただき、ありがとうございます。
以上で、令和4年度第1回結城市総合教育会議を閉会いたします。

午後5時35分閉会